

港湾工事における 施工パッケージ型積算方式について

平成26年3月18日



国土交通省
国土技術政策総合研究所
管理調整部 積算支援業務課

◆ 目 次（内容構成） ◆

1. 国土交通省における施工パッケージ型積算方式

- (1) 土木工事におけるこれまでの取り組み
- (2) 港湾工事におけるこれまでの取り組み

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式

- (1) 施工パッケージ型積算方式の適用時期と範囲
- (2) 導入スケジュール
- (3) 施工パッケージ内容
- (4) 用語の定義・解説
- (5) 根固ブロック製作工におけるパッケージタイプ数
- (6) 根固ブロック製作工における積算体系の相違
- (7) 施工パッケージ単価の設定方法
- (8) 施工パッケージ単価の透明性の確保
- (9) 標準単価から積算単価への補正
- (10) 標準単価、機労材構成比等の公表
- (11) 積算単価の算出方法（計算例①）
- (12) 積算単価の算出方法（計算例②）
- (13) その他工種について(1)
- (14) その他工種について(2)

3. 入札・契約図書類における検討

- (1) 見積参考資料の変更①
- (2) 見積参考資料の変更②

4. その他

- (1) 資料の入手先（平成26年1月現在）

1. 国土交通省における施工パッケージ型積算方式

(1) 土木工事におけるこれまでの取り組み

【土木工事におけるこれまでの取り組み】

- ◆積算の効率化を目的として、平成5年から「市場単価」、平成16年から「ユニットプライス型積算方式」を導入
- ◆変更協議の円滑化を目的として、平成22年から「総価契約単価合意方式」を全ての工事に導入
- ◆より積算を効率化するため、平成24年から、「ユニットプライス型積算」を廃止し「施工パッケージ型積算方式」を導入

- ◆平成24年10月1日からは、3工事区分(舗装、道路改良、築堤・護岸)の主要工種に63施工パッケージを適用。
- ◆平成25年10月1日からは、3工事区分(舗装、道路改良、築堤・護岸)および6工事区分(道路維持・修繕、河川維持・修繕、砂防堰堤、電線共同溝)の主要工種に146施工パッケージを新に追加適用。
- ◆「施工パッケージ単価」を導入した工種は、積算基準書から歩掛が削除され、工事区分にかかわらず全ての土木工事において「施工パッケージ」による積算を行う。

1. 国土交通省における施工パッケージ型積算方式

(2) 港湾工事におけるこれまでの取り組み

【港湾工事におけるこれまでの取り組み】

- ◆積算の効率化を目的として、平成7年から「市場単価」、平成17年からブロック製作工において「ユニットプライス型積算方式」を試行(平成25年度に廃止)
- ◆変更協議の円滑化を目的として、平成21年から「総価契約単価合意方式」を一部の工事に試行
- ◆より積算を効率化するため、平成26年から根固ブロック工において「施工パッケージ型積算方式」を試行

- ◆平成26年4月1日からは、根固ブロック工(根固ブロック製作)において一部適用。
- ◆平成26年4月1日からは、土工及び構造物撤去の一部において、土木工事と同様の施工パッケージを適用。

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式

(1) 施工パッケージ型積算方式の適用時期と範囲

【適用開始】

◆平成26年4月1日以降に**入札する工事**より試行する。

【適用範囲】

- ◆平成26年4月1日からは、**港湾工事における根固ブロック工(根固ブロック製作)**について適用。
- ◆施工パッケージ単価のタイプと合致する形状の根固ブロック製作については、この単価を用いて試行することとし、積上積算方式での積算は行わない。
- ◆ただし、施工パッケージ単価のタイプと合致しない形状の根固ブロック製作については、従来どおりの積み上げ積算を採用。
- ◆**土工および構造物撤去工の一部**については、土木工事における施工パッケージを適用

【適用範囲の拡大】

◆平成26年度以降は、**根固ブロック工の試行状況を鑑みて**、順次適用範囲を拡大する。

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (2) 導入スケジュール

年 度		平成24年度	平成25年度		平成26年度		
月		10月～3月	4月～9月	10月～3月	4月～9月	10月～3月	
積算方式の適用	港湾請負工事積算基準	積上積算方式				施工パッケージ方式【試行】	
		【港湾工事歩掛】 根固ブロック製作の検討		【港湾工事歩掛】 根固ブロック製作以外の適用工種 検討			
施工パッケージ化検討等		【2省合同歩係】 土工、構造物撤去工の検討					

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式

(3) 施工パッケージ内容

◆港湾工事における「**根固ブロック工(根固ブロック製作)**」について、試行的に施工パッケージ型積算方式を採用する。

現行積算(積上方式)

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		
根固ブロック工	根固ブロック製作	ルーフィング敷設	ルーフィング敷設 100㎡当り	
		枠組足場架払	鋼製枠組足場架払 100㎡当り	
		鉄筋加工組立	鉄筋荷卸	126t当り
			鉄筋加工組立	1,000kg当り
		吊鉄筋組立	吊鉄筋・吊バー	1本当り
			吊鉄筋・吊バー組立	1,000kg当り
		型枠組立組外	鋼製型枠組立組外	100㎡当り
陸上コンクリート打設	コンクリート打設	10m ³ 当り		

施工パッケージ型積算 (施工パッケージ+積上方式)

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		
根固ブロック工	根固ブロック製作	施工パッケージ	根固ブロック製作 1個当り	
		枠組足場架払	鋼製枠組足場架払 100㎡当り	
		鉄筋加工組立	鉄筋荷卸	126t当り
			鉄筋加工組立	1,000kg当り
		吊鉄筋組立	吊鉄筋・吊バー	1本当り
			吊鉄筋・吊バー組立	1,000kg当り

積み上げ積算における

- ・ルーフィング敷設
- ・鋼製型枠組立組外
- ・陸上コンクリート打設

を施工パッケージ化 (標準ブロックの形状11タイプ)

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式

(4) 用語の定義・解説

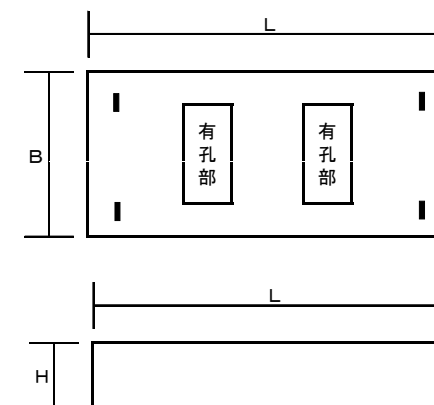
名称	定義・解説
標準単価	<ul style="list-style-type: none"> ・東京地区における基準年月の標準的な施工パッケージ単価 ・施工パッケージ型積算方式導入時の基準年月は平成25年4月 ・国総研HPに公表(基準書には掲載されない)
積算単価	<ul style="list-style-type: none"> ・工事地区、発注時期に応じて標準単価を補正して算出する単価 ・補正により算出可能であるため非公表
代表機労材規格	<ul style="list-style-type: none"> ・標準単価を設定した際に想定した代表的な機械・労務・材料規格 ・国総研HPに公表(基準書にもパッケージ毎に記載) ・機械1機種、材料1規格、市場単価3種類を公表
機労材構成比	<ul style="list-style-type: none"> ・標準単価毎に設定された代表機労材規格毎の金額構成比率 ・国総研HPに公表される(基準書には掲載されない)
機労材補正式	<ul style="list-style-type: none"> ・積算単価算出の際に使用する補正式 ・国総研HPに公表(基準書には非掲載)
工事費内訳書	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回入札に際し、第1回入札書に記載される入札金額に対応した工事費の内訳書であり、入札参加者から提出される
応札者単価	<ul style="list-style-type: none"> ・工事費内訳書に記載された単価
請負代金内訳書	<ul style="list-style-type: none"> ・数量総括表に掲げる工種、種別及び細別に対応する金額を表示したもので、契約締結後14日以内に受注者から提出される

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (5) 根固ブロック製作工におけるパッケージタイプ数

◆根固ブロックの形状については、各地方整備局の事例を収集し、標準的なブロック寸法を以下の11タイプとして、施工パッケージ型積算方式を採用する。

施工パッケージ化対象ブロックタイプ一覧表(案)

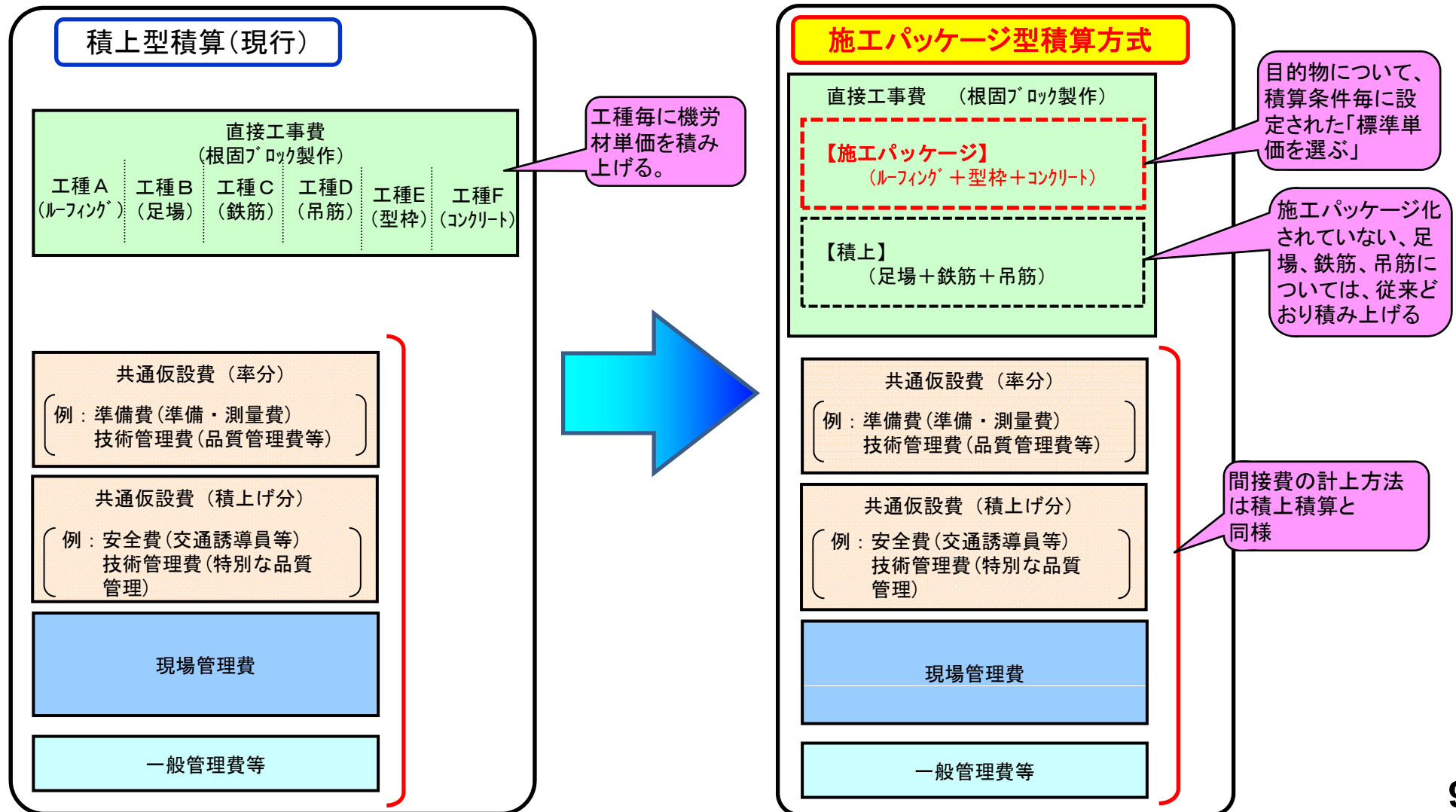
No	ブロックタイプ	所要厚 t(m)	ブロック形状			有孔部(箱抜き)			備考
			L(m)	B(m)	H(m)	L(m)	B(m)	箇所数	
1	ブロックA	0.8	2.5	1.5	0.8	0.4	0.9	1	4本吊
2	ブロックB	1.0	3.0	2.5	1.0	0.7	0.5	2	〃
3	ブロックC	1.0	5.0	2.5	1.0	1.0	0.4	3	〃
4	ブロックD	1.2	4.0	2.5	1.2	1.0	0.5	2	〃
5	ブロックE	1.2	4.0	2.5	1.2	0.8	0.7	2	〃
6	ブロックF	1.4	5.0	2.5	1.4	1.0	0.5	2	〃
7	ブロックG	1.6	5.0	2.5	1.6	1.0	0.5	2	〃
8	ブロックH	1.8	5.0	2.5	1.8	1.0	0.5	2	〃
9	ブロックI	2.0	5.0	2.5	2.0	1.0	0.5	2	〃
10	ブロックJ	2.2	5.0	2.5	2.2	1.0	0.5	2	〃
11	ブロックK	2.7	4.0	3.0	2.7	1.2	0.5	2	〃



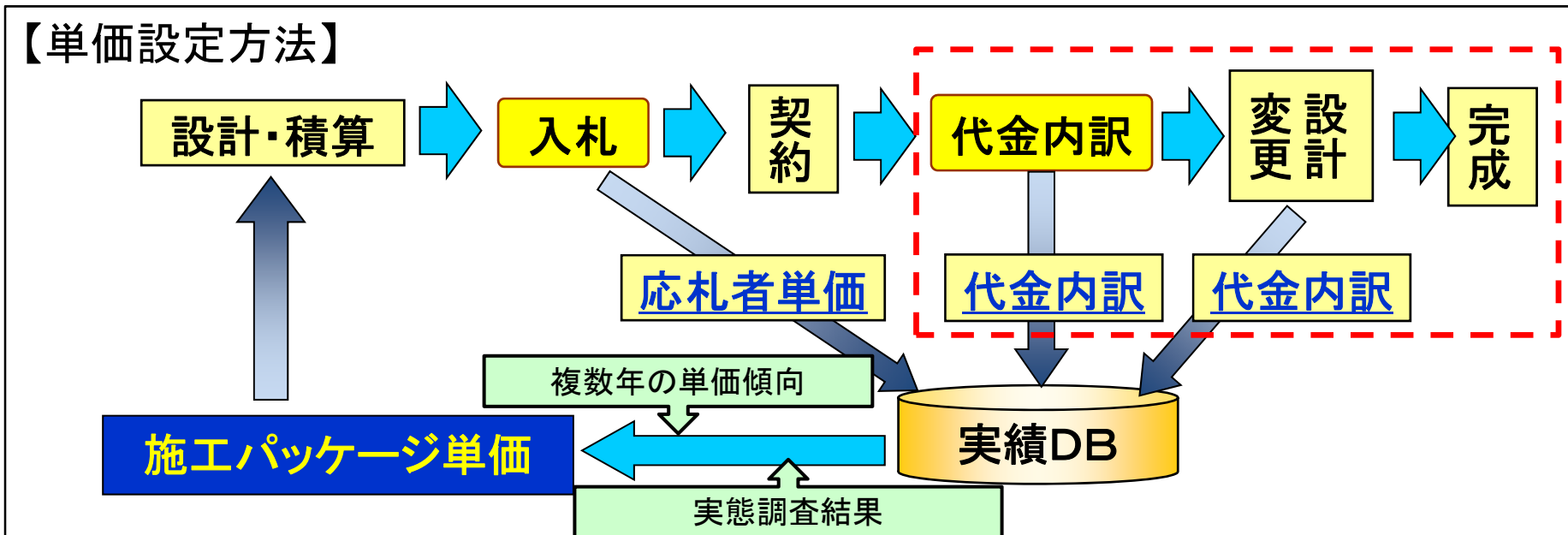
※ 上記のタイプに該当しない場合は、従来どおり積み上げ積算

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (6) 根固ブロック製作工における積算体系の相違

『施工パッケージ型積算方式』とは、**直接工事費**について、**施工単位ごと**に機械経費、労務費、材料費等を含んだ**施工パッケージ単価**を設定し、積算する方式。



2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (7) 施工パッケージ単価の設定方法



【実績DB収集方法】

◆ 港湾請負工事

- ・ 応札者単価 → 工事費内訳書
- ・ 落札者単価 → 請負代金内訳書
工事費内訳書

★ 「請負代金内訳書」「工事費内訳書」について

- ・ 従 来 : 根固ブロック製作 の1パターン提出
- ・ H26dより : ① 根固ブロック製作 (施工パッケージ分)
② 根固ブロック製作 (積上分) の2パターンの提出

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式

(8) 施工パッケージ単価の透明性の確保

「施工パッケージ単価」は、その設定された価格の透明性を確保するため、**標準単価を公表**。積算にあたっては、標準単価を実際に工事を行う地域や時期にあった単価（積算単価）に補正するため、**標準単価から積算単価への補正方法（補正式）**も公表。

《補正式（イメージ）》

H26.5 名古屋 積算単価

$$= \text{H25.4東京標準単価} \times \left(K \times \frac{\text{H26.5名古屋機械単価}}{\text{H25.4東京機械単価}} + Z \times \frac{\text{H26.5名古屋材料単価}}{\text{H25.4東京材料単価}} + S \times \frac{\text{H26.5名古屋場単価}}{\text{H25.4東京市場単価}} \right)$$

分子の機材単価は、毎月変動

分子の市場単価は、四半期毎変動

分母の機材市場単価は、年度内固定

K: 標準単価に占める機械費の構成割合
Z: 標準単価に占める材料費の構成割合
S: 標準単価に占める市場単価の構成割合

公表（年1回）

- ◆ 補正式
- ◆ H25.4東京地区の標準単価
- ◆ 標準単価における機材市構成比

非公表

- ◆ 積算単価
⇒ 補正式を用いて算出可能
- ◆ 機械・材料・市場単価
⇒ 物価資料等により公表されている

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (9) 標準単価から積算単価への補正

施工パッケージ型積算方式で用いる標準単価(P)から積算単価(P')への補正式は以下のとおり。

≪ 補正式 ≫
$$P' = P \times \left[\begin{array}{l} \frac{K_r}{100} \times \frac{K_t'}{K_t} \quad \leftarrow \text{機械: 1機種} \\ + \frac{Z_r}{100} \times \frac{Z_t'}{Z_t} \quad \leftarrow \text{材料: 1規格} \\ + \left(\frac{S_{1r}}{100} \times \frac{S_{1t}'}{S_{1t}} + \dots + \frac{S_{3r}}{100} \times \frac{S_{3t}'}{S_{3t}} \right) \times \frac{S_r}{S_{1r} + \dots + S_{3r}} \\ + \frac{100 - K_r - Z_r - S_r}{100} \end{array} \right]$$

市場単価: 3種類

P' : 積算単価(積算地区、積算年月)

P : 標準単価(東京17区、基準年月)

K_r : 標準単価における機械の構成比合計

K_t : 代表機械規格Kの単価(東京17区、基準年月)

K_t' : 代表機械規格Kの単価(積算地区、積算年月)

Z_r : 標準単価における材料の構成比合計

Z_t : 代表材料規格Zの単価(東京17区、基準年月日)

Z_t' : 代表材料規格Zの単価(積算地区、積算年月)

S_r : 標準単価における全市場単価(S₁~S₃)の構成比

S_{1r}~S_{3r} : 標準単価における代表市場単価(S₁~S₃)の構成比

S_{1t}~S_{3t} : 市場単価Sの所与条件における単価

(東京17区、基準年月)

S_{1t}' ~ S_{3t}' : 市場単価Sの所与条件における単価

(積算地区、積算年月)

※ 標準単価から積算単価への補正方法は、地域および時期の違いによる補正に加え、以下の補正が必要な場合もある。
・条件区分に定めのない規格により積算する場合

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (10) 標準単価、機労材構成比等の公表

◆標準単価、単価補正式、機労材構成比及び代表機労材規格を年に1回国総研HPに公表。

<積算単位：個>

条件区分						標準単価	機労材構成比															
ブロックタイプ 所要厚(m)	上段：ブロック寸法			実質量 (t)	コンクリート 打設方法		機械構成比率				材料構成比率				市場単価構成比率							
	L	B	H				K				Z				S							
	(L)	(B)	(N)				K1	K2	K3	R	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	S1	S2	S3	S4
0.8m	2.5 (0.9)	1.5 (0.4)	0.8 (1)	6.23	直接	64,249	3.63	3.63					50.48	50.48					45.89	34.98	9.28	1.63
1.0m	3.0 (0.5)	2.5 (0.7)	1.0 (2)	15.64	直接	144,665	3.00	3.00					56.26	56.26					40.74	28.94	10.34	1.46
	5.0 (0.4)	2.5 (1.0)	1.0 (3)	25.99	直接	232,046	2.77	2.77					58.28	58.28					38.95	26.72	10.71	1.51

代表機労材規格の表記
(機械:1, 材料:1, 市場
単価:3種類)

代表機労材規格														
K			R				Z				S			
K1	K2	K3	R1	R2	R3	R4	Z1	Z2	Z3	Z4	S1	S2	S3	S4
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型]20t吊							レディミクストコンクリート[18-8-25]				型枠組立組外 [材工共・クレーン 抜き]根固ブロック	コンクリート打設[手 間のみ・直接打 設]根固ブロック	底面工・ルーフィ ング[材工共]	
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型]20t吊							レディミクストコンクリート[18-8-25]				型枠組立組外 [材工共・クレーン 抜き]根固ブロック	コンクリート打設[手 間のみ・直接打 設]根固ブロック	底面工・ルーフィ ング[材工共]	
ラフテレーンクレーン [油圧伸縮ジブ型]20t吊							レディミクストコンクリート[18-8-25]				型枠組立組外 [材工共・クレーン 抜き]根固ブロック	コンクリート打設[手 間のみ・直接打 設]根固ブロック	底面工・ルーフィ ング[材工共]	

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (11) 積算単価の算出方法(計算例①)

計算例① 地域および時期の違いによる補正の計算例

【条件】

- ・ブロック形状 5.0×2.5×2.2m、有孔部(0.5×1.0m)2カ所
- ・条件区分 コンクリート打設 : クレーン打設、クレーン機種規格 : ラフテレーンクレーン20t吊
- ・標準単価 : 514,556円
- ・H26.4における名古屋地区の単価を算出

表1 : 根固ブロック製作の代表規格・構成比

規 格		構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)
K		5.85	—	—
K1	ラフテレーンクレーン[20t吊]	5.85	34,400	36,000
R	対象なし		—	—
Z		58.84	—	—
Z1	レテ ^o イミクストコンクリート[18-8-25]	58.84	11,850	8,000
S		35.30	—	—
S1	型枠組立組外[根固ブロック、クレーン抜き]	23.79	2,650	2,800
S2	コンクリート打設[根固ブロック、クレーン抜き]	10.82	2,200	2,350
S3	ルーフینگ ^o [材工共]	0.69	310	310

※H26.4の単価は、架空の単価である。

$$P'(\text{名古屋H26.4}) = 514,556$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{5.85}{100} \times \frac{36,000}{34,400} \right) \times \frac{5.85}{5.85} \right. \\
 & + \left(\frac{58.84}{100} \times \frac{8,000}{11,850} \right) \times \frac{58.84}{58.84} \\
 & + \left(\frac{23.79}{100} \times \frac{2,800}{2,650} + \frac{10.82}{100} \times \frac{2,350}{2,200} + \frac{0.69}{100} \times \frac{310}{310} \right) \\
 & \left. \times \frac{35.30}{23.79+10.82+0.69} + \frac{100-5.85-58.84-35.30}{100} \right\} = 428.315
 \end{aligned}$$

$$\doteq 428,400 \text{ (円/個)}$$

※積算単価は、有効桁数4桁、5桁目以降切り上げ

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (12) 積算単価の算出方法(計算例②)

計算例② 条件区分に定めのない規格により積算する場合の計算例

【条件】

- ・ブロック形状 5.0×2.5×2.2m、有孔部(0.5×1.0m)2カ所
- ・条件区分 コンクリート打設 : クレーン打設、クレーン機種規格 : (標準)ラフテレーンクレーン20t吊 → ラフテレーンクレーン35t吊
- ・標準単価 : 514,556円
- ・H26.4における名古屋地区の単価を算出

表2：根固ブロック製作の代表規格・構成比

規 格		構成比(%)	東京(H25.4)(円)	名古屋(H26.4)(円)
K		5.85	—	—
K1	ラフテレーンクレーン[20t吊]	5.85	34,400	56,800
R	対象なし		—	—
Z		58.84	—	—
Z1	レテ [®] イミクストコンクリート[18-8-25]	58.84	11,850	8,000
S		35.30	—	—
S1	型枠組立組外[根固ブロック、クレーン抜き]	23.79	2,650	2,800
S2	コンクリート打設[根固ブロック、クレーン抜き]	10.82	2,200	2,350
S3	ルーフینگ [®] [材工共]	0.69	310	310

※H26.4の単価は、架空の単価である。

$$P'(\text{名古屋H26.4}) = 514,556$$

$$\begin{aligned}
 & \times \left\{ \left(\frac{5.85}{100} \times \frac{56,800}{34,400} \right) \times \frac{5.85}{5.85} \right. \\
 & + \left(\frac{58.84}{100} \times \frac{8,000}{11,850} \right) \times \frac{58.84}{58.84} \\
 & + \left(\frac{23.79}{100} \times \frac{2,800}{2,650} + \frac{10.82}{100} \times \frac{2,350}{2,200} + \frac{0.69}{100} \times \frac{310}{310} \right) \\
 & \left. \times \frac{35.30}{23.79+10.82+0.69} + \frac{100-5.85-58.84-35.30}{100} \right\} = 446.515
 \end{aligned}$$

$$\doteq 446,600 \text{ (円/個)}$$

※積算単価は、有効桁数4桁、5桁目以降切り上げ

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (13) その他工種について(1)

◆港湾工事における「土工」について、土木工事と同様に施工パッケージ型積算方式を採用する。

現行積算(積上方式) : 28代価表

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)			
掘削工	土砂掘削	ブルドーザ掘削	ブルドーザ掘削押土 1,000m3当り		
		バックホウ掘削	バックホウ掘削積込	100m3当り	
			バックホウ積込	100m3当り	
			バックホウ床掘	100m3当り	
			掘削補助労務(基面修正)	100m2当り	
			ダンプトラック運搬	ダンプトラック運搬 100m3当り	
		人力併用機械掘削	片切(人力併用機械掘削) 100m3当り		
		土砂掘削(小規模掘削)	バックホウ掘削	バックホウ掘削積込	10m3当り
				バックホウ積込	10m3当り
	バックホウ舗装版破砕積込			10m2当り	
	バックホウ床掘	10m3当り			
	ダンプトラック運搬	ダンプトラック運搬 10m3当り			
	土砂掘削(人力掘削)	人力掘削	人力切崩し	10m3当り	
			人力掘削(床掘)	10m3当り	
			人力積込	10m3当り	
			ダンプトラック運搬	ダンプトラック運搬 10m3当り	
		盛土工	土砂盛土	埋戻	埋戻A 100m3当り
	埋戻B 100m3当り				
埋戻C 100m3当り					
埋戻D 100m3当り					
敷均し締固め	ブルドーザ敷均し			100m3当り	
	タイヤロー締固め			100m3当り	
	ブルドーザ敷均し締固め			100m3当り	
狭隘な箇所の敷均し締固め	3t級ブルドーザ敷均し			100m3当り	
	人力土工敷均し			100m3当り	
土砂盛土(小規模埋戻)	バックホウ埋戻			バックホウ埋戻 10m3当り	
	土砂盛土(人力盛土(埋戻))		人力盛土(埋戻) 10m3当り		

施工パッケージ型積算 : 13パッケージ

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)		
土工	掘削	施工パッケージ	掘削 1m3当り	
	土砂等運搬	施工パッケージ	土砂等運搬 1m3当り	
	整地	施工パッケージ	整地 1m3当り	
	路体(築堤)盛土	施工パッケージ	路体(築堤)盛土 1m3当り	
	路床盛土	施工パッケージ	路床盛土 1m3当り	
	押土(ルーズ)	施工パッケージ	押土(ルーズ) 1m3当り	
	積込(ルーズ)	施工パッケージ	積込(ルーズ) 1m3当り	
	人力積込	施工パッケージ	人力積込 1m3当り	
	作業土工 (床掘工)	床掘り	施工パッケージ	床掘り 1m3当り
		基面修正	施工パッケージ	基面修正 1m2当り
舗装版破砕積込 (小規模土工)		施工パッケージ	舗装版破砕積込 (小規模土工) 1m2当り	
作業土工 (埋戻工)	埋戻し	施工パッケージ	埋戻し 1m3当り	
	タンバ締固め	施工パッケージ	タンバ締固め 1m3当り	

施工パッケージ化に伴い、基準構成を見直した。

なお、標準単価については、土木工事を適用。

2. 港湾工事における施工パッケージ型積算方式 (14) その他工種について(2)

◆港湾工事における「**構造物撤去工**」について、土木工事と同様に施工パッケージ型積算方式を採用する。

現行積算(積上方式) : 1代価表

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
取壊し工	コンクリート取壊し	構造物取壊し	10m3当り
		コンクリートガラ運搬	1日(m3)当り

施工パッケージ型積算 : 1パッケージ

種別(レベル3)	細別(レベル4)	積算要素(レベル6)	
取壊し工	コンクリート取壊し	構造物取壊し	10m3当り
		施工パッケージ コンクリートガラ運搬	1m3当り

コンクリートガラ運搬について、施工パッケージ化。
なお、標準単価について、土木工事を適用。

3. 入札・契約図書類における検討

(1) 見積参考資料の変更①

◆ 施工パッケージ化に伴い、見積参考資料の内容が変更となる。

現行(積上積算方式)	改正(施工パッケージ型積算方式(案))
------------	---------------------

名 称	規格・形状寸法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要	備 考
直接工事費							
防波堤・防砂堤・導流堤							
被覆・根固工							
根固ブロック工							
根固ブロック製作							
1 ルーフィング敷設		m ²	150.00				
2 コンクリート打設		m ³	209.00				
3 吊鉄筋・吊バー組立		k g	919.00				
4 鋼製型枠組立組外		m ²	382.00				
共通仮設費(積上)							
共通仮設							
共通仮設費							
運搬費							
建設機械器具等運搬							
5 分解組立運搬		式	1.00				

名 称	規格・形状寸法	単 位	数 量	単 価	金 額	摘 要	備 考
直接工事費							
防波堤・防砂堤・導流堤							
被覆・根固工							
根固ブロック工							
根固ブロック製作							
1 根固ブロック製作		個	12.00				
2 吊鉄筋・吊バー組立		k g	919.00				
共通仮設費(積上)							
共通仮設							
共通仮設費							
運搬費							
建設機械器具等運搬							
3 分解組立運搬		式	1.00				

その他必要に応じて積上分追加
 ・枠組足場
 ・鉄筋加工組立 etc

3. 入札・契約図書類における検討

(1) 見積参考資料の変更②

◆ 施工パッケージ化に伴い、見積参考資料の内容が変更となる。

現行(積上積算方式)	改正(施工パッケージ型積算方式(案))
------------	---------------------

名称	規格・形状寸法	単位	数量	条件名	条件入力値
1 ルーフィング敷設		m ²	1	100m ² 当り (100m ²) 下地材料の有無	無し
2 コンクリート打設		m ³	1	10m ³ 当り (10m ³) 施工方式	ミキサー車打設
3 吊鉄筋・吊バー組立		kg	1	1000kg 当り (1000kg) ラフテレーンクレーンの規格	ラフテレーンクレーン (排出ガス対策型) : (油圧伸縮ジブ型) 20t 吊
4 鋼製型枠組立組外		m ²	1	100m ² 当り (100m ²) ラフテレーンクレーンの規格	ラフテレーンクレーン (排出ガス対策型) : (油圧伸縮ジブ型) 20t 吊
5 分解組立		式	1	1式 当り (1式) 機械区分の種類 規格区分の指定 分解・組立使用機械の種類 ラフテレーンクレーンの規格 分解・組立区分	クローラークレーン系 150t 吊以下 (クラムシェル平積3.0m ³ 以下含む) ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 50t 吊 分解+組立

名称	規格・形状寸法	単位	数量	条件名	条件入力値
1 根固ブロック製作		個	1	ブロック形状 コンクリート打設 ラフテレーンクレーンの規格 (K1) レディーミクストコンクリートの規格 (Z1) 型枠組立組外 (S1) コンクリート打設 (S2) ルーフィング (S3) 下地材料の有無	5.0×2.5×1.4 有孔部2箇所 直接打設 ラフテレーンクレーン (排出ガス対策型) : (油圧伸縮ジブ型) 20t 吊 18N-8-25 材工共・クレーン抜き・根固ブロック 手間のみ・直接打設・根固ブロック 材工共 無し
2 吊鉄筋・吊バー組立		kg	1	1000kg 当り (1000kg) ラフテレーンクレーンの規格	ラフテレーンクレーン (排出ガス対策型) : (油圧伸縮ジブ型) 20t 吊
3 分解組立		式	1	1式 当り (1式) 機械区分の種類 規格区分の指定 分解・組立使用機械の種類 ラフテレーンクレーンの規格 分解・組立区分	クローラークレーン系 150t 吊以下 (クラムシェル平積3.0m ³ 以下含む) ラフテレーンクレーン (油圧伸縮ジブ型) 50t 吊 分解+組立

施工パッケージにおける、条件区分を明示することにより、標準単価を確認可能

施工パッケージにおける、機械、材料、市場単価を明示することにより、標準単価からの補正を確認可能

4. その他

(1) 資料の入手先(平成26年1月現在)

◆「標準単価」は国総研ホームページで公表しています。

◆施工パッケージ型積算方式標準単価表(H26. 4適用)

【国総研HP】

国総研トップページ>横須賀庁舎のページ>研究所紹介(管理調整部)>積算支援業務課>施工パッケージ型積算方式関連資料

<http://www.y.sk.nilim.go.jp/kakubu/kanri/sekisan/sekou.html>

注)施工パッケージ基準において、「土工」および「構造物撤去工」に関する施工パッケージ単価等の掲載箇所は以下のとおり。

【国総研HP】

国総研トップページ>各研究部のページ(総合技術政策)>建設システム課>研究テーマ・技術情報
>施工パッケージ型積算の研究

http://www.nilim.go.jp/lab/pbg/theme/theme2/theme_sekop.htm